

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	新規治療薬時代の移植適応多発性骨髄腫の治療成績に関する研究
研究責任者	血液内科 医師 小倉瑞生
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>多発性骨髄腫は血液細胞の一種である形質細胞が腫瘍化することで発症する予後不良の血液疾患です。若年の多発性骨髄腫に対しては自家末梢血幹細胞移植術が良好な成績を示しています。また、近年ではプロテアソーム阻害薬・免疫調整薬・抗体医薬などの新しい薬剤が登場し、さらに予後が改善してきています。しかし、これら新薬の時代においても移植後早期再発は一定の確率で起きており、そのような症例の予後は芳しくありません。そこで今回我々は、当院で治療を行った移植適応多発性骨髄腫の患者さんの予後及び早期再発率について、新薬登場前後での比較検討を中心に解析を行い、予後不良因子を検索することにしました。本研究により新規薬剤時代における移植適応の多発性骨髄腫の患者さんの予後及びリスク因子を見出し、今後の骨髄腫患者の治療方針決定に役立てていくことが本研究の目標となります。</p>
研究方法	<p>○対象となる患者さん 2010年8月から2022年12月の期間に当院で治療を受けた多発性骨髄腫の患者さん</p> <p>○方法 患者さんの診療録(カルテ)を用いて、年齢・性別・既往歴、骨髄腫のリスク分類などの背景因子、移植前の治療歴、移植後の生存状況、移植後の再発の有無、再発例については再発後の治療およびその反応性、再発後の生存状況などの情報を収集します。収集されたデータを元にして下記の評価項目について検討します。</p> <p>○評価項目 主要評価項目:全生存期間 副次評価項目:無増悪生存期間、移植後再発率、移植後早期再発(移植日から24か月以内の再発)率、再発後生存期間</p> <p>※研究成果の発表について、及び倫理的配慮について 本研究で得られた成果は学会や学術雑誌等で公表致します。その際、個人情報保護については十分に配慮の上で解析・発表を行います。 対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方はお手数ですが下記までご連絡下さい。本研究へご協力頂けない場合でも、今後の診療において不利益を被ることはございません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者:小倉 瑞生 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604</p>